



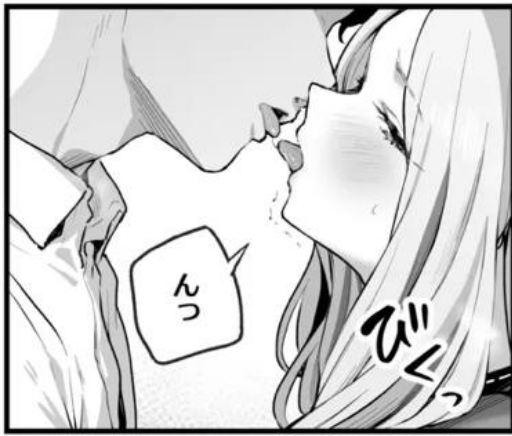
学園アイドル

禪

合

同

成人
指定



それは…っ

あなたが
食い入るように
見つめるからっ

色々思い出して
しまつて…

先輩が
いけないのよ…?

反省
しているの？

本当に困つて
いるんだからっ

前まではこんなこと
なかったのに…

もい もい

それは
申し訳ないことを

んっ

対策案…？

もちろんです

対策案も思いついた
ところですよ

おにゅにゅ

しっかり
発散しきれば
いいんです

お互い足りて
いないから

やましいことを
考えて
しまふんですよ

△に

それはそうかも
しれないけれど…

信じられ
ませんか？

信じていない
わけじゃ…

でも…その…

なんですか？

絶対笑わない？

笑いませんよ

たくさん
した日でも

次の日には
またしたいって
思ってしまうから…

発散しきるなんて
できるのかしらって…

…

本当にもう…

そんな誘い文句
どこで覚えて
来るんですか…

せ先輩…？
目が怖いわ…

ひゃっ

カチャ
カチャ

こんなに
濡らして…

前戯は
いりませんね

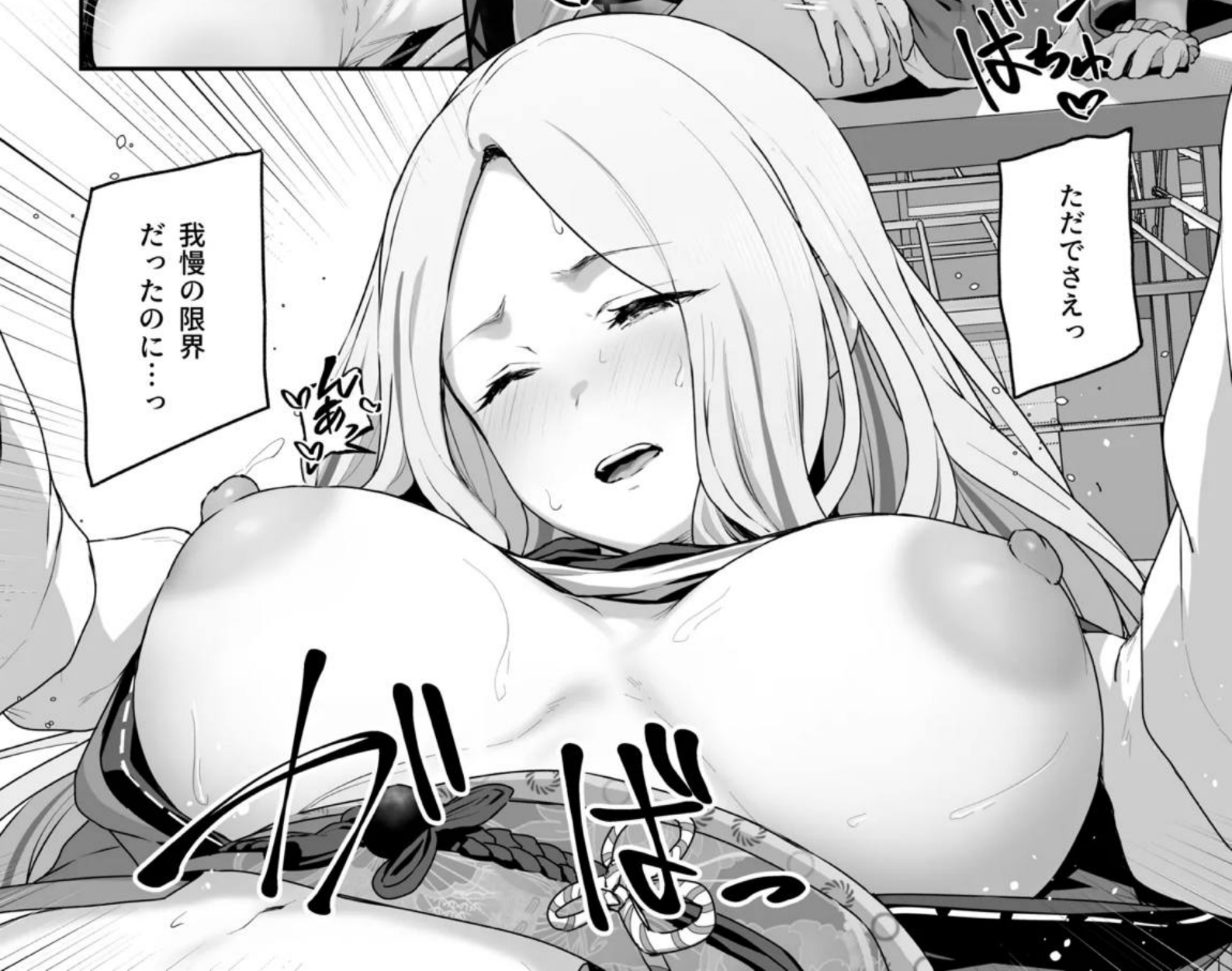
んっ

くちゅ♡

あははは…♡

~~~~~

ほろん.

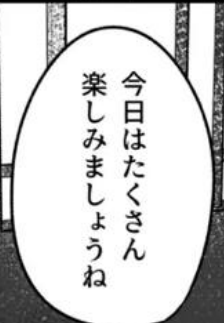














きそい受け  
温野りよく





お仕置きするって  
言いましたよね？

次約束を破って  
お昼寝したら



あなたが  
悪いんですよ

言うことを  
聞かない





秦谷さん

おわ...

ちゃんと処理をして  
おいてくださいと  
言いましたよね

くっく

ひひ

はみ出したら...  
周りの方々に  
見えていたら

どうするつもり  
だったんですか

くっく

くっく















お疲れ様でしたーっ!!

プロデューサーさんっ!  
ライブ、どうでしたっ?  
あたし、今日すっごい  
良かったと思うんですっ!

素晴らし  
かったですよ  
ただ衣装が  
少し違うような…

そうですか?~  
お姉ちゃんもこんな感じで  
ライブしてましたよ?~

それに…  
あたしちよっと前まで  
お祭りでこんな感じの  
ふんどし…? 着てましたよ!

ちよっと前…?

……

**花海佑芽の  
ストレス解消法!**  
アメイ





プロデューサーさんっ♡

ライブ終わったら  
いつもの♡してくれる  
約束ですよっ♡

…はいはい

あたしのこどもの時の  
ふんどし姿想像して、  
ぼっきさせるのが  
悪いんですよっ♡

もち、…

…ついこないだまで  
ふんどしを履いて  
祭りに出てる事実が  
エロ過ぎるんだけだな

えっちな  
プロデューサー  
さんには…♡

ひゅん

罰としてプロデューサーさん  
おまんこ舐めるやつ  
やってくださいっ♡

むしろ褒美…

…良いでしょう

元々ライブ後には  
昂ぶりを抑えさせて  
頂く予定でしたからね

にひひ♡









ぬちっし

ニヤァ...

ぬちちっ

ぬっし

フプッフプッし

ぬちっし

ビッ

ニヤァ

ビッ

ビッ

ビッ

ニヤァ

ビッ

ぬこっし

男子高校生だって  
こんなピストン  
しねえぞ♥

うおっ...♥  
動物みたいな  
ピストンっ♥



はちや

はちや

はちや

ニヤァ

ニヤァ

ニヤァ

ビッ

ニヤァ

はちや

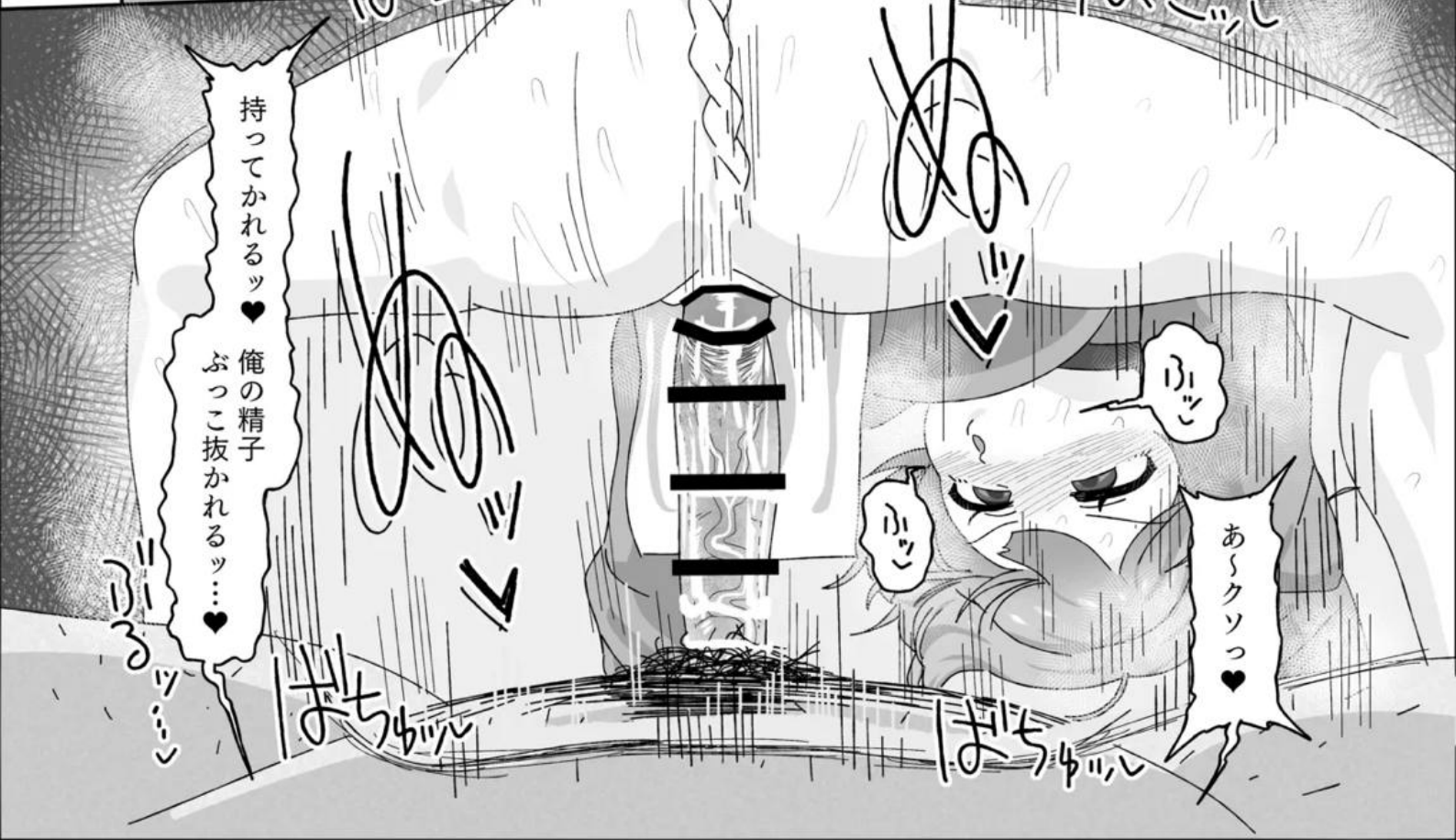
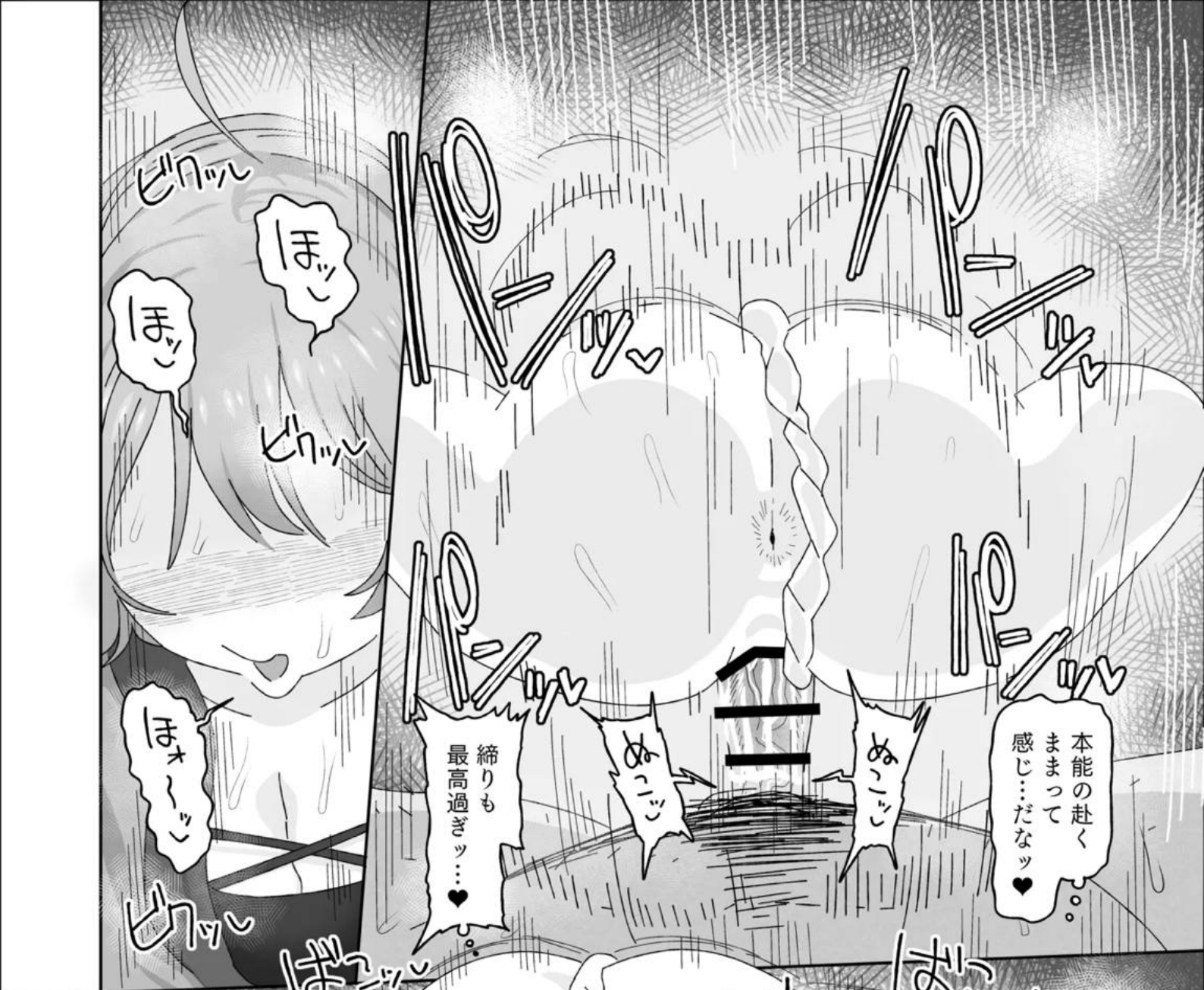
ニヤァ

ビッ

ニヤァ

ビッ

ニヤァ









# あとがき



鳶村 (@tobimura128)

星奈会長の陰毛パラメータは1億万IP(Inmou Point)ですね……♡



温野りよく (@UnoRyoku)

「毎晩、その、陰毛を…いや、ク〇ニさせてほしいんだ…」



アメちゃ (@Candy\_pic\_)

佑芽のふんどしの汗を全部出汁にして味噌汁を作らせてくれ…♣

「毎晩、その、陰毛を…いや、ク〇ニさせてほしいんだ…」

あとがき：温野りよく

「起きてください、美鈴」

プロデューサーであり彼氏でもある彼の声で私は目を覚ました。

「はいこれ、合鍵です」

「まあ…ようやく観念したんですね」

彼氏彼女として付き合い始めてから、以前より私生活で距離を置かれるようになった。

なんでも、そういう関係になってしまったからこそ、こういうやり取りも冗談ではなくなってしまう。

初星学園の生徒である間は節度を守りたいのだ、と。元々持っていた合鍵は没収された。

…ふざけないでほしい。

ようやくモノにしたというのに、以前より離れてしまうことになるなんてありえない。

私は激怒した。夜中に忍び込み、彼を襲ってやった。

そうして、迎えた朝が今である。彼は私のことを好いている。やはり私には逆らえなかったのだ。

差し出された合鍵を見る。

窓からさす日差しを反射して、ピカピカと輝いている。

綺麗だ。また私の勝ちだ。

勝利に酔いながら、彼の差し出す手から鍵を受け取ろうとする。

ひよい、と私の手をかわした合鍵。

「どういうつもりですか」

「あげてもいいけれど、その代わり…」

彼は真剣な表情だ。こちらも背筋を正す。

「毎晩、その、陰毛を…いや、ク〇ニさせてほしいんだ…」

彼は顔を赤らめ、けれどしっかりとこちらを見ていた。

呆れた。けれど怒りは無かった。

「いいですよ」

私は憂鬱な彼氏も受け入れられる、よく出来た彼女じゃないか。

私たちの関係はこれからだ。

